

事象叙述述語の属性叙述化

言語学 4 年 原大樹

1. 問題提起

- (1) a. [Experiencer 太郎]が[Theme お世辞]に照れる。
b. [Theme お世辞]は照れる。 (属性叙述化)

(1b)では属性叙述化が可能であるが、これは常に可能なわけではない。本論文の目的は、心理動詞の属性叙述化が可能になる条件を明らかにすることである。

2. 同じ語根の形容詞形がある場合

まず、その心理動詞に同じ語根の形容詞形が存在している場合、動詞文の属性叙述化は容認性が低い。

- (2) a. ??結婚は羨む。 (羨む - 羨ましい)
b. ??卒論発表会は苦しむ。 (苦しむ - 苦しい)
c. ??失恋は悲しむ。 (悲しむ - 悲しい)
d. ??初戦敗退は悔やむ。 (悔やむ - 悔しい)
e. ??飲み会は楽しむ。 (楽しむ - 楽しい)

3. Theme の格が関わる場合

同じ語根の形容詞形が存在しなくても、心理動詞が属性叙述化しない場合がある。

- (3) a. ??格下はあなどる。
b. ??卒業はあやぶむ。
c. ??仲間は疎んじる。

実は、属性叙述化しない(3)はすべて Theme がヲ格となる動詞である。これに対して、Theme が二格をとりうる動詞の場合には、属性叙述化しうるのである。

- (4) a. 女優は憧れる。 (~に憧れる)
b. 学食は飽きる。 (~に飽きる)
c. 故郷は焦がれる。 (~に焦がれる)
(5) a. 手抜きはおこる。 (~をおこる)、(~におこる)
b. 他人の出世はひがむ。 (~をひがむ)、(~にひがむ)

- c. 不遇は憤る。 (~を憤る)、(~に憤る)

4. Theme の修飾部の有無が関わる場合

同じ語根の形容詞形がなく、Theme が二格になりうる場合でも、属性叙述化の容認性が低い場合がある。

- (6) a. ??出来事はうろたえる。
b. ??返答は困る。 (小竹・酒井 2011: 23,(9b))
c. ??着信音はびくつく。

しかし、この場合は、修飾部が付くと容認性が上がる。これに対して、(2)や(3)の場合には、いくら修飾部を加えても、容認性は上がらない。

- (7) a. 予期せぬ出来事はうろたえる。
b. 突然の返答は困る。
c. 突然の着信音はびくつく。
(8) a. ??度重なる結婚は羨む。
b. ??突然の飲み会は楽しむ。
c. ??息子の学生時代は懐かしむ。
(9) a. ??たくさんの仲間は疎んじる。
b. ??大学の卒業はあやぶむ。
c. ??長期間の不況は恨む。

5. まとめ

- (10) 本論文での観察のまとめ
a. 心理動詞に同じ語根の形容詞形がある場合、属性叙述化の容認性は低い。
b. 心理動詞の Theme が二格をとれない場合、属性叙述化の容認性は低い。
c. (10a),(10b)の条件を満たしていても容認性が低い場合、Theme を修飾する要素を増やすことによって、属性叙述化の容認性が高くなる。

参考文献

- 小竹直子・酒井弘 (2011)「心理動詞による属性文の意味的成立条件」『日本語文法』11(1): 20-36.
三原健一 (2000)「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」『日本語科学』8: 54-74.
清水泰行 (2007)「心理動詞の格と意味役割の対応・ずれ 「引用構文」における名詞句と引用節の意味関係から」『日本文芸研究』58(4): 23-29. 関西学院大学.